



みんな なかよく げんきに のびよう

三つの宝「①つくしくまわりを ②がおてあいさつを ③ちんとくつならべ」

令和6年度 第52号
熊本市立植木小学校
令和6年12月10日
校長 東田 昌樹

引き続き「防犯」へのご協力をお願いします。

下校中、本校の児童への声かけ事案があり、1週間ほど職員で下校の見守りをしました。

保護者の皆様にも見守っていただいています。ありがとうございます。

警察により捜査やパトロールもあっていますが、解決には至っておりません。

今後も子どもたちをしっかりと見守っていく必要があります。

先日、自治協議会において、自治会長の皆様にも防犯のご協力をお願いしました。

地域で防犯意識を高めるとともに、子どもたちの防犯意識を高める必要があります。今回の声かけ事案では、幸い当事者の子どもは逃げる行動ができました。

「周りの大人が子どもたちを守ること」、「子どもたち自身が自分で自分の身を守ること」、どちらも大切です。

以下、12月10日の「地区児童会」において、子どもたち自身が自分で自分の身を守るために確認したことです。



- 1 「子どもひなんの家」の確認
- 2 「いかのおすし」の確認
- 3 「あいさつができる地域には犯罪が少ないこと」を伝えること

まず、「子どもひなんの家」について、子どもたちが知っておく必要があります。

これまでのPTA役員の方々のご尽力で、植木校区には「51」の「子どもひなんの家」があります。

「子どもひなんの家」は、何かあったら逃げ込める場所であること、どこにあるかということ子どもたちが具体的に理解するように、ご家庭でも確認していただきますようお願いいたします。

次に、「いかのおすし」についてです。子どもたちにとって当たり前の行動になるように、何度も確認しておく必要があります。

知らない人には「ついて”いか”ない」「車に”の”らない」、危険だと感じたら「”お”お声を出す」「”す”ぐ逃げる」「大人に”し”らせる」ことです。

そして、「あいさつが交わされるまちには犯罪が少ない」という定説があります。

不審者は声をかけられることを最も嫌がる、住民同士の人間関係ができていることで、いわゆる「近所の眼」が犯罪者に注がれ抑止力になるという理由です。

子どもたちも、大人も、日頃よりあいさつを交わすことが、防犯対策につながることを伝えています。

【本校の教育目標】

気づき・考え・行動する自立と共生の力を備えた子どもの育成
～ どの子ども大切にされ、どの子ども成長する学校をめざして ～

